

12月1日(火) 朝来小学校・朝来幼稚園 公開授業・保育を実施しました

保幼小連携活動について学ぶため、朝来小学校と朝来幼稚園の公開授業・保育を実施し、鳴門教育大学大学院教授木下光二先生にご指導いただきました。

保育所・幼稚園・小学校から約40名の参加がありました。

朝来小学校・朝来幼稚園が、木下先生のご指導を受けて連携活動の公開を行うのは、今回が初めてですが、交流・連携活動は以前からされており、今年度も春から小学校と幼稚園とが一緒に年間の計画を立て、この公開までに何度も一緒に活動をされています。

＜公開授業・保育＞

場所：朝来小学校

9:40-10:50 連携活動 公開授業・保育

11:00-12:00 カンファレンス

～生活科学習指導案より～

【学 年】小学校第1学年：31名、第2学年：17名

幼稚園 年長児：14名

【単元名】あそびのフェスティバルをたのしもう

【本時の目標】

1年生：年長児や2年生、友達と協力し合ってお店屋さんを開き、遊ぶ楽しさに気付くことができる。

2年生：みんなが楽しめるように、年長児や1年生、友達と協力し合ってお店屋さんを開き、自分や友達のよさに気付くことができる。

年長児：1、2年生や友達と相談したり、役割を分担したりして遊び、自分の思いを伝えながら、様々な人とかかわって楽しく遊ぶ。

【本時までの経過(抜粋)】1年生、2年生、年長児が混合で8つのグループに分かれて、それぞれのグループごとに

→どんな遊びのお店を開きたいか具体的に話し合い、計画を立てる

→計画に沿いながら、「あそびのフェスティバル」に向けて、遊びや遊びに使う物を作成するなど、お店の準備をする

→お店の遊びを試し、気付いたことから工夫できることを話し合い、ルールの変更や追加で必要な物を作成する

【本単元以前(春から)の連携活動】

◎1、2年生で幼稚園を訪問、自己紹介をし合い、一緒に歌や遊びを楽しんだ。

◎幼稚園の畑へ行き、サツマイモの苗と一緒に植えたり、収穫と一緒に楽しんだりした。

＜活動を通して＞

2年生：昨年を思い出し、自分なりに1年生や年長児に声をかけ、思いやりを持ってかかわろうとする姿が見られた。

1年生：小学校の中では一番年下だが、年長児とのかかわりの中で、優しく接していこうという気持ちを持って、取り組む姿が見られた。

年長児：1、2年生にすっかり打ち解けている様子が伺えた。



連携活動「子ども達がどれだけ自己発揮できているか」～木下先生カンファレンスより～
「先生と一緒にやって何を学んでいるか、幼稚園は小学校から、小学校は幼稚園から」

各指導者より

[2年生]

◎毎回自分達で考えて、司会やあいさつをしていて、子どもも司会が好きで、どうしたら伝わるかを考えている。2年生の司会を見て、1年生もどう語ればよいか分かってきた。

◎自分達でお店の約束やルールを決めた。年長児や1年生がリードしている場面もあったが、一人でいる子に声をかけたり、気にかける場面もあった。

◎振り返りの場面で、来年度に向けてこんな風にしたらよい、ということ言えたらよかった。

◎担任の出番がないくらい楽しめていた。

[1年生]

◎いつもはお世話してもらって立場から、年長児の面倒をみる姿も見られるようになり、回を重ねるごとに年長児をリードする姿も見られた。上にも下にもいる状況。どちらの役目も必要。

◎2年生の司会を見て学んで今後にかかしてほしい。

◎もぐらたたきは疲れるので、2年生が1年生に「休憩しときな」とやさしく声をかけていた。それを見て1年生も年長児と同じことをしてい

た。

[幼稚園]

◎今回に向けて9月から4回学校に行った(それまでも交流あり)。

初めて学校に行った時には、教室に入ると緊張する様子があったが、交流の中で大きい子達にやさしく声をかけてもらったり、休み時間に一緒に遊ぶ中で緊張も取れてきた。

幼稚園でおとなしい子が小学校では力が発揮できたり、その逆もあった。

◎お店のお金作りは、何か出来ることはないかと幼稚園の子ども達だけで作った。「喜んでもらえるかな」と心をこめて作っていた。

◎1年生、2年生、年長児関係なく、ルールを説明したりしていた。

参加者からの質問

[Q1]子ども達が主体的に活動し、ルールを変えながら進めている姿があつて良かった。本時まで15時間も時間をとってられる。自分の経験では(招待された年長児が)お客さんになってしまうことが多くあつたが、こちらは相談している姿が伝わってきた。今日にいたるプロセ

スを知りたい。

年長児が来るまでに準備を進めておられたが、そこを年長児も一緒にすることでワクワク感を一緒に味わうとまた変わるのではないかなと思う。

→[A. 2年担任]

◎木下先生が「できることからつながりを」とおっしゃっていた。昨年度は当日だけの取り組みで、年長児はお客さんになってしまっていた。今年は一緒にできるよう、調整は難しかったが、4月に幼稚園に行き、みんなで年間計画を立て、スケジュール通りに行った。

◎子ども達は、作ることの楽しさ、教えてあげる喜びを感じられたと思う。振り返りも一緒にやることで違ってくる。

[Q2]連携活動では年長児がお客さんにならないことが大切。今日のはお客さんにならない取り組みで良かった。年長児は上の子を見て自信を持ってお店屋さんをやっていた。招待するのは簡単だが、一緒にするのは大変だと思う。準備する段階で、それぞれにどんな役割があつたのか。

→[A. 2年生担任]

◎2年生がリーダーとなり、1年生はこれ、年長児はこれ、と仕事を割り振った。役割分担は2年生がした。幼稚園には事前に、何班は〇〇と表にして渡した。

[年長担任]

◎幼稚園に何を準備するかの書類がきて1回目やってみたら、学校も幼稚園がこれくらいできると分かって、次から内容が変わっていった。最初何をしていたか分からなかった子がいたが、次の時に1、2年生に「何をしたらいいか聞こう」と言って取り組み、「初めてガムテープを切った。」など子ども達は喜んでた。

[幼稚園長]

◎年長児は参加、遊ぶということだけでなく、一緒にすることが必要と思う。
◎年間を通した計画と活動が必要。
◎連携活動は幼稚園と小学校とが一緒にやるものなので、幼稚園がこうしようと思っけても、相手がこうと言うとできないこともある。そこが聞いてもらえるところだからできた。大変だがやりがいがある。

[木下先生]

◎連携活動では、幼児がどれだけ自己発揮できているかを見る。
◎開会式はちゃんとしすぎて楽しそうじゃなかった。しかし始まったら、缶が倒れたのをずっと直していた子や、何度も遊びをやるよう釣竿を渡してくる子などいて、自己発揮できていた。
◎今日だけの活動じゃなかったからできた。継続の中で「安心感・自己発揮・自己肯定感」が生まれて今日があった。これからは楽しみ。
◎連携で大切なのは、先生と一緒にやって何を学んでいるか。幼稚園は小学校から、小学校は幼稚園から。何を学んだか聞かせてほしい。

→[年長児担任]

◎学校は遊びの中でも授業として学びを意識されていた。幼稚園にもカリキュラムはあり、遊びの中で学ぶことが大切だができておらず、自分の認識が甘かったと感じた。

[1年担任]

◎あいさつや礼儀など、1年生でできていないことが年長児ではすぐできていたと思った。
◎幼稚園の先生が子ども達へやさしく丁寧に声かけをされており、見習いたいと感じた。
◎年長児が、活動の最後の振り返りで意見が言えるのはすごいと思った。

[2年担任]

◎年長児にどんなことができるか分からず、最初は簡単なことをさせていた。見ていたらもっとできることがたくさんあるのが分かった。小学校に入るまでにここまでできるんだと感じた。簡単に分かりやすく話すことを学んだ。



[木下先生]

◎保育所・幼稚園の時にどう育てて入ってくるのかを知らないと、ここまでできるなら小学校ではここから始めようというように、スタートが多少違ってくる。

◎朝、小学生が準備をして幼稚園の到着を待っていたが、その時間があったくない。年長児も来て一緒に運んだり、準備すればよい。

◎静かなところで店の説明が必要だろうか？ポスターもあるし、見て「あそこおもしろそう。」と思って行っている。実際の祭りでもお店の説明はなく、あそこ楽しそう、行ってみようとなる。無駄な時間を省けばもっと長い間子ども達が一緒にいられる。指導案よくできていた。無駄を省いて必要なことをやっていくことで良くなる。かたく考えずにもっと子どもにまかせるとよい。

◎連携事業となると「5歳児に何かしてあげよう。」となるが、いつもやっているところに5歳児が入るだけでいい。幼小の違いにこだわらないこと。買い物だけでなく作る場所にも入る。幼児が困ってもよい。困って考えることで成長につながる。そして5歳児が入ろうと入るまいと生活科は生活科。大事なものは「気づき」、「もの・こと・人とのかかわり」。ねらいは変わらない。

◎お店屋さんのお金は、算数セットのお金でもよいのでは。接続カリキュラムに算数の要素が入ってもよい。2年生はお金を数えられる。それを見た1年生や年長児はすごいと思う。1年生や年長児が計算できなくてもよい。数えるって楽しい！と思うことが大事。年長児も楽しく数を数える経験になる。

◎ゲームも数や量、ワークシートで何点になったか、迷路ならどのチームが一番早かったかタイムを競うなど、活動に数量の要素が入るともっとおもしろい。

◎ゲームのところで、紙飛行機を飛ばすだけで

なく、お客さんが自分で折って飛ばしてみるとか、釣竿も自分でひもをつけてからやるとか、「もの・こと」へのこだわりが入るとよい。学びの要素を取り入れる。

◎自分は交流活動のときに1年生担任として、子ども達に「優しくなさい」と言わないようにしていた。普段から優しくするのはあたりまえ、今日だけじゃない。普段から優しい子に育てる。

◎振り返りの場面で、幼稚園児と1・2年生がみな「〇〇して楽しかった。」等同じようなことを言っていた。「その楽しかったっていうのはどういうこと？」と先生が聞くと答えが広がり、国語科につながる。

◎振り返りの時に、幼稚園の先生は「どの子どもの姿が一番良かったか」を伝える。1・2年生の先生は生活科の観点で、「どの子どもの気づきが良かったか」を伝える。名前なども具体的に伝える。保育・教育で目指しているものを伝える。そうすると次の活動が変わってくる。

◎連携活動は、無理のないことをしないと続かない。作ることを子どもにまかせよう。下手でもよい。普段やっていることをやる。子どもにまかせてしっかりと活動させてあげることが大切。

◎自然物があるとよい。秋なので、どんぐりや落ち葉等使えたのではないかな。10円玉の代わりにどんぐりでも良かったのでは。

◎1日入学体験で、幼稚園児のために土産まで作ったりするところがあるが、1年生の普通の生活を体験させればよい。

◎連携から接続へ。年間スケジュールを作って活動されている。接続カリキュラムに近づいている。

◎連携の前に、それぞれの保育・生活科がある。一緒に合わせる回数が多い方が仲良くなって自分達でいろいろ解決できる。

◎この後の連携は？

(→[小学校]3月に昔の遊びをやる予定。)

今日の店も、すごろく・ケン玉・ヨーヨーでもいいと思っていた。縄跳びもいい。クリスマスリース、保育所・幼稚園のもちつきに小学生を招待するのもいい。

<カンパレンス後、木下先生のことばより>
(朝来小学校と朝来幼稚園の)学校の先生と保育所・幼稚園の先生とが、「今日の〇〇ちゃん、こうだったね。」と言って、お互いに誰のことか分かって話している。単なる一回の交流ではなく、いい連携活動ができていく証拠。

幼児教育・保育の質向上研修 現地研修(鳴門教育大学附属幼稚園 幼児教育研究会)を実施しました。

平成27年11月21日(土)に鳴門教育大学附属幼稚園の幼児教育研究会に参加しました。大型バスで早朝の出発となりましたが、約40人が参加されました。

公開保育見学会後、全体会での研究発表、分科会が行われました。団塊世代の大量退職など、若い世代への保育・経験の伝承が全国的にも課題となる中、保育キャリア、経験年数からアプローチした内容となっていました。

帰りのバスでは、公開保育や研究会の中で、自分が見聞きし、感じ、発見したことを各参加者から発表する振り返りを行い、多くの学びを共有することができました。

<参加園>岡田保育園、平保育園、タンポポハウス、八雲保育園、ルンビニ保育園、昭光保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、舞鶴幼稚園

<内容>1. 公開保育 2. 研究発表
3. 分科会※保育キャリアによる選択
4. 鼎談「育つ育てる保育の未来」

公開保育を見た参加者からは、「子ども達の目にすぐつく場所に野菜等が植えられていた。類似したものを少量ずつ植えることで子どもに気づかせる工夫があった。」「材料や道具などが分類してテーブルや棚など子ども達の手のすぐ届くところに置いてある。」「秋ならではの木の実や素

材、絵本が置いてあった。」「時間がきても「片付けましょう」ではなく、「そろそろ仕上げてね」、「完成形にしてください」等の声かけがなされ、「何時までに片付けよう」ではなく、「何時になったら次の〇〇をしよう」と子ども達が主体的に動く声かけになっていた。」等の感想が寄せられました。

また、分科会や鼎談では、登壇者から「保育者の育成も子どもの育成も同じ。プロセスが大事。」や「私が何かをすれば子どもが育つと思っていたが、子どもとつくる、子に寄り添うへ。原因と結果的考え方から、子が何を通して何を学んでいるのか?という考え方に変わった。」等の発言がありました。